

お 名 前	性 別	卒 業 年	小 学 校	現 住 所
小林 勝則 <small>かつのり</small>	男 性	昭 3 8 年 (1963)	八名小 清水野教場	新 城 市

「清水野小学校最後の卒業生」

♪♪♪清水野小学校よい学校、裏から見ればつつかい棒…、昭和31(1956)年頃、現在の一畝田茶業組合の工場がある場所に保育園があった。当時の建物は保温性が求められる蚕(1~2齢)の共同飼育場として建てられたもので、壁は厚く窓は二重構造でがっちりしていた。この園には八名井と庭野の子も来ていたが、小学校は清水野小、八名井小、庭野小と分かれて進むので、清水野小に進む子は自虐的に？、他の小学校に進む子は揶揄してこの歌を歌っていたのかも知れない。なんとなく清水野小学校は他の小学校と比べて“おんぼろ校舎”だと想像できた。

清水野小学校は、正門の内側に立派な車まわしの植え込みがあり、続いて正面玄関まで両側にセンダンが植えられた並木道があった。並木の右(東)側に大きな築山があり、私が入学した昭和32年(1957)頃は、そこで新入生の記念写真を撮るのがならわしだったようだ(写真参照)。築山の南には小運動場・テニスコートや相撲の土俵、炭焼き窯などもあった。センダン並木の入り口の西には、根を地上にくねらした松の大木があり、春には大きな羽蟻がたくさん飛んでいた。並木の西側に広がっていた大運動場は、よく整備されて小石もなく水はけも良かった。ある年の運動会で途中に激しい雷雨があったときも、ぬかるむことなく少しの休憩を挟んで再開された。

さて、つつかい棒は校舎の裏だけでなく表側にもあった。つつかい棒があるだけに、冬はすき間風で寒かったものの、夏は校舎と運動場の間に植えられたプラタナス等が厳しい日差しをさえぎっていた。伊勢湾台風のときには、激しく折れたり倒れたり危うい一方で回復力が強い樹木だった。



昭和32年 清水野小学校入学当時の写真

このことを今でも記憶しているのは、♪♪♪プラタナスの枯葉舞う冬の道で…(はしだのりひことシューベルツ「風」)、と高校卒業(1969.3)の頃に流行ったフォークソングの影響だと思う。プラタナスには「鈴懸の木」というロマンチックな別名があることはずっと後で知った。♪♪♪友と語らん鈴懸の径、通いなれたる学校(まなびや)の街(「鈴懸の径」と昔の流行歌にあるように、この樹は

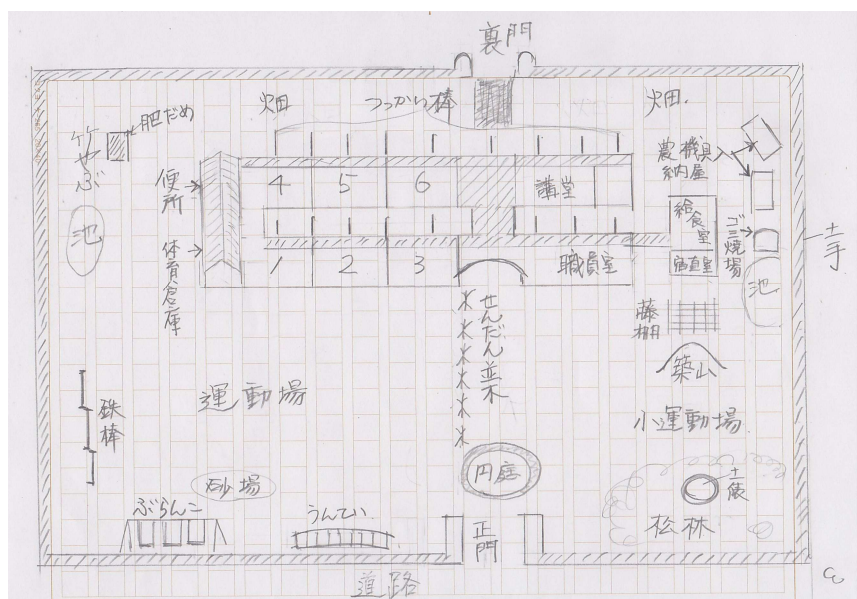
学校に植えられることが多かったのかも知れないが、風情があるとは思えない。

当時は誰もが家の仕事を手伝うのが普通で、私も子どもながらに家人の農作業や山林作業について行ったが、3年生頃から豊川用土地改良事業が始まり、林が田や畑に造成されるなど地域の風景がどんどん変わっていった。また、牛が耕耘機に代わり、鶏は路地から飼育ケージに移された。炊飯器や冷蔵庫、洗濯機、テレビなどが次々に入ってきて、一挙に“文明化”された。自動車は未だごくわずかだったがバイクが走るようになった。小学校のテレビは木製鍵付きの厨子のような家具に鎮座していた。しかし、トイレはずっとくみ取り式だった。職員便所も掃除の区割りの対象になっていて、6年生のときには中西忠史君と私の二人で、肥桶にくみ取って校内西側の竹藪の片隅にあった“肥溜め”まで“担い棒”を使って運んだ。50年以上を経た今、彼と一緒に区役員を務めているのはその縁かも知れない。八名小学校は別として、中学校や多くの家庭が浄化槽を設置して水洗トイレになったのはずっと後のこと、この地域の下水道の整備は未だ道半ばとなっている。

小学校の生活の記憶は自分では確かなつもりでも、卒業時に作成した文集らしきものに照らすと記憶がすり替わっていたり、同級生と話してみると案外いい加減な記憶になっていることに気づく。忘れたいと願った記憶は概ね曖昧になっている。しかし、どこに何があったかは意外に覚えていて、同級会の折に絵図にして盛りあがったことがある。(☞図参照)

私が5年生のとき清水野小学校は閉校となり、6年生のときは八名小学校清水野教場となったが日常はなにも変わらなかった。卒業時(1963.3)に新校舎は未完成、新しい校歌もなく、卒業式がどこで行われたのか、校歌は省略されたのか、記憶にない。それでも、♪♪♪むらさき匂う…春は桜の爛漫と…、格調高い？清水野小学校の校歌は懐かしく頭の片隅に残っている。

清水野小学校校舎の最後の卒業生であつても清水野小学校の卒業生ではないという中途半端な状況の故か、小学校の同級会を開いたことは1回だけ。同時に八名小学校の1回生ではあるが、八名小学校の卒業生という自覚



昭和38年当時の清水野小学校の配置図

はほとんどない。地元の同級会と言え、庭野・八名井を含めて八名地区全体で集う中学校のそれであり、幸いそれは回を重ねている。

清水野小学校のシンボルはつかい棒であったが、八名小学校は豪華な校舎と言われたものの早々に建物に亀裂が入った。これを歌にするにはあまりに悲しい。わが息子が6年生のとき(1996年)震度3程度の地震で玄関のガラス等が破損したが、その時には校舎の建て替えが決まっていた。親子2代、卒業と同時に幼い時の学び舎が無くなったことになるが、世の変化を意識するには効果的だったかも知れない。

♪♪♪ひとは誰もふるさとを振り返る…♪♪♪ 振り返ってもそこにはただ風が吹いているだけ…。北山修のこの感傷的な詞は、無くなったものを思い出すに相応しいが、今の小学生に語るには説明が必要な文章になってしまった。清水野小学校の跡地は工場や住宅団地になっているが、平成28年7月現在、その風に産廃処理施設の悪臭が混じることが無いように、爽やかな風が吹き続けるように願って止まない。